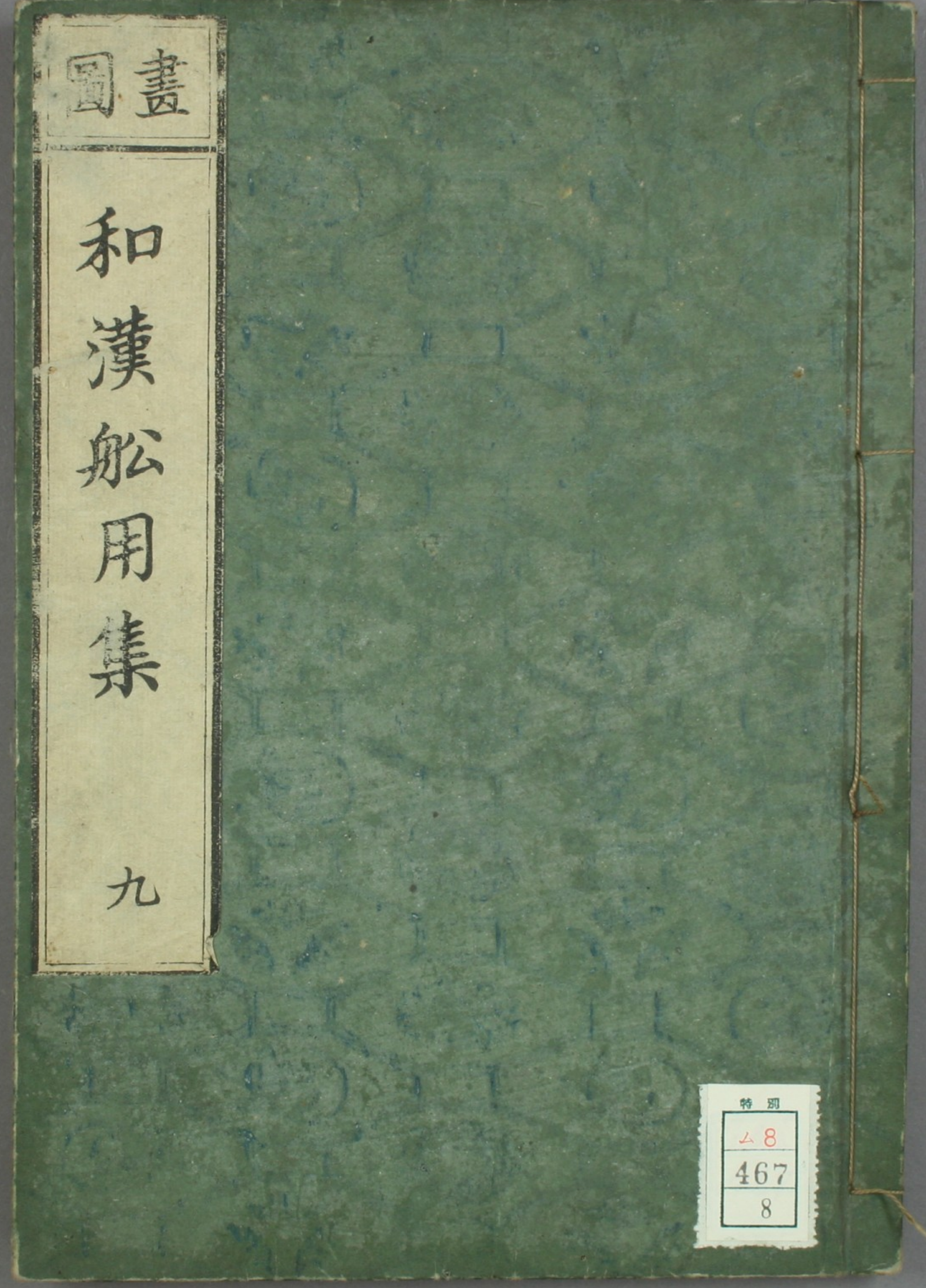
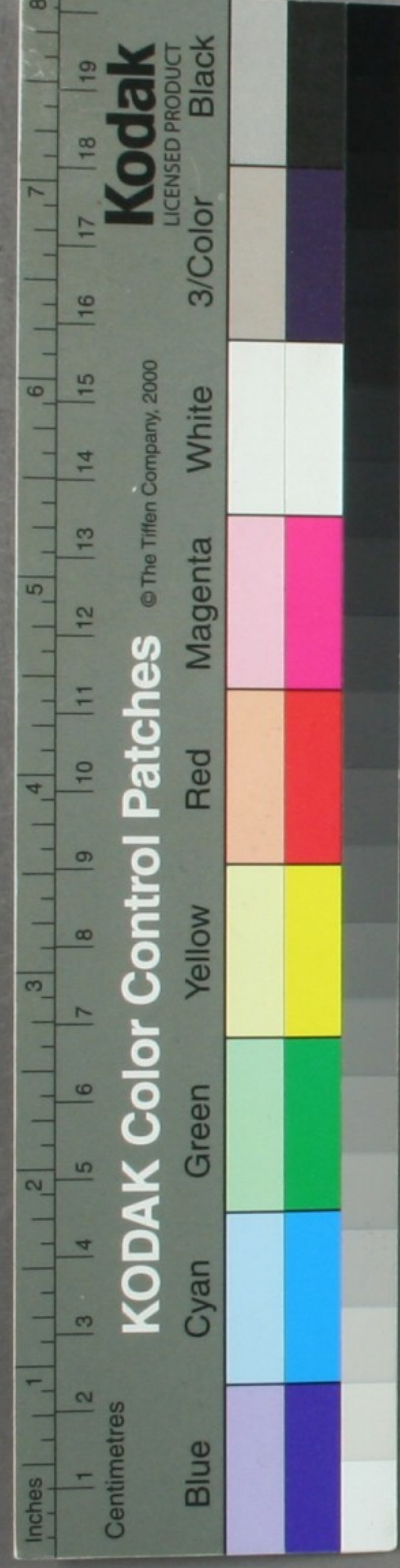




和漢船用集卷第九目錄

目錄

有舟形無用之部
有舟圖無形之部
七夕之為舟之部
非舟為舟之部
非船比舟之部
有舟名別物之部
苦船之事

和漢船用集卷第九

金澤兼光編集



有舟形無用之部

破船

日本紀敏達天皇二年高麗使人越海破船
淮南子曰水戾破舟宋史軍破船得

なりよくいふといふ

張沙製

片破舟子載集ふりつとふのれつりてとよめり

敗船

三體詩 秋萍滿敗船

漏船

舟中滄入のれつ船也吳子曰善將者如坐漏船之中
戰國策曰塞漏舟而輕陽候之波則舟覆矣

片破舟

院御製

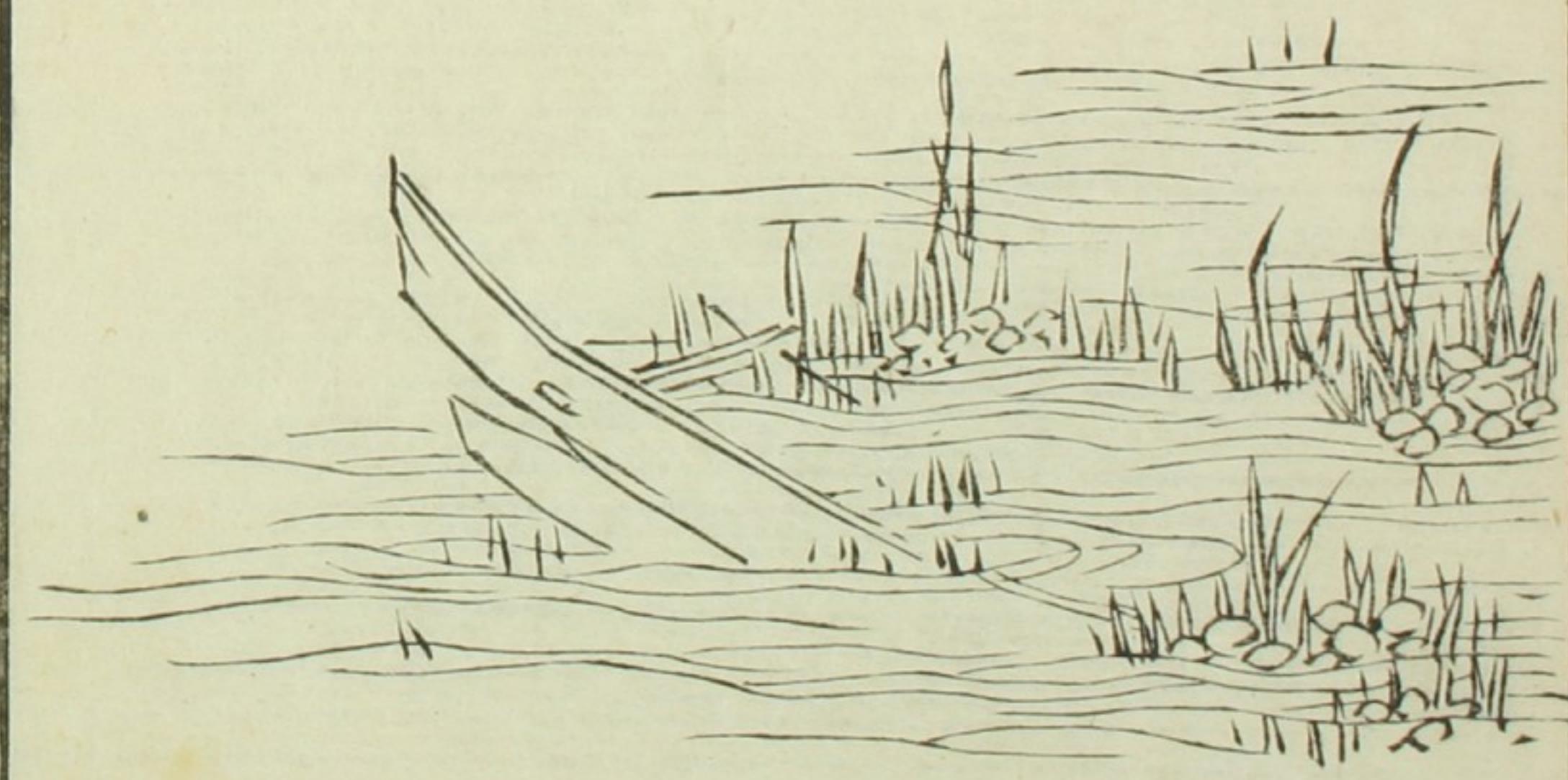
玉葉
浦うくさ

入江まきつ

つと船の

それそ
くだけく

人ハ恋
しふ



ヲホロ
大古舟

藤垣まゝ人の乃ぬ舟なりいろふき舟なり
いはなき舟をつまきく也古きとをわたりといまなり

いろゝゝ那波なりのおちる舟月のまゝとをまゝとをまゝ

朽舟 朽換一そのくさう舟也

夫本
くもまれにさまりにふむくち舟は波で一方をさすの舟なり

ハソシ
破損船

或ハ怪俄舟と云海河と云那国と違てやふれ換す
者小ハ修理とくハてのゝ大破はさる者のくさう舟

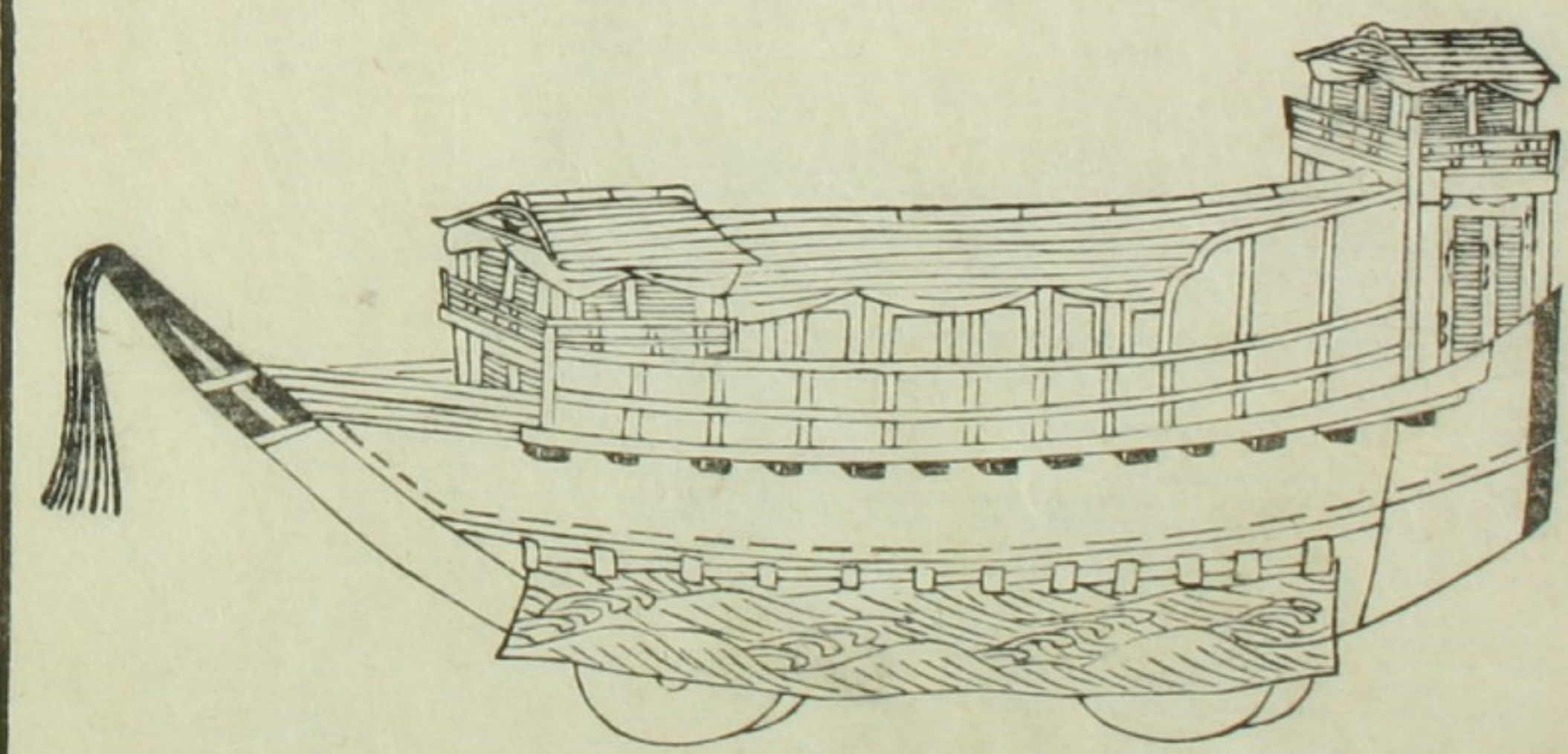
同
くさう舟はくさう舟と云ふ舟はくさう舟の波はおはれぬなり

トキ
解舟

檣州大坂の波を解船町りのくさう舟を解て
賣買に用くゝ舟屋の材とん

風雅
と浦は朽く換う舟まゝ舟我舟はひく波もわりなり

龍舟



龍舟

祇園會舟并々々の取也神事は用く舟と
云振別浪花わり抽地車はあつたり外より船
の取方をつつて飾といへとも内は空なりたは
参りしつゝ

有圖無形之部

寶船

は寶といふより足れは熱名うて是名とも
へ一ははるるときおのゝ形なりうにあらは
か邦除夜は是と書七福神と云一室を積の舟也
廻文をうけり其畫と古今のお送る圖之又
後河成院御震業の宝船と世に其圖を写し載は

後陽成院御震筆



寶船古圖



寶船新圖

るうきよの

とおれわうろ

みあめさめ

あまのり

うみ

おと

うみ

うみ



寶船

是ハふ云寶船ハ回字別名なり當麻中將姫
曼多羅寶池段又右の船なり是と寶船云々

右有寶船注ニ私釈曰此船中有塔九輪四方有網四網於

娑婆者塔為中央表四佛四智淨土因煩餘方也頂上有似

蓋方壇上有坐像三尊如蓋印相來迎也二菩薩同合掌

也二童同棹艦有寶珠舳似龍尾

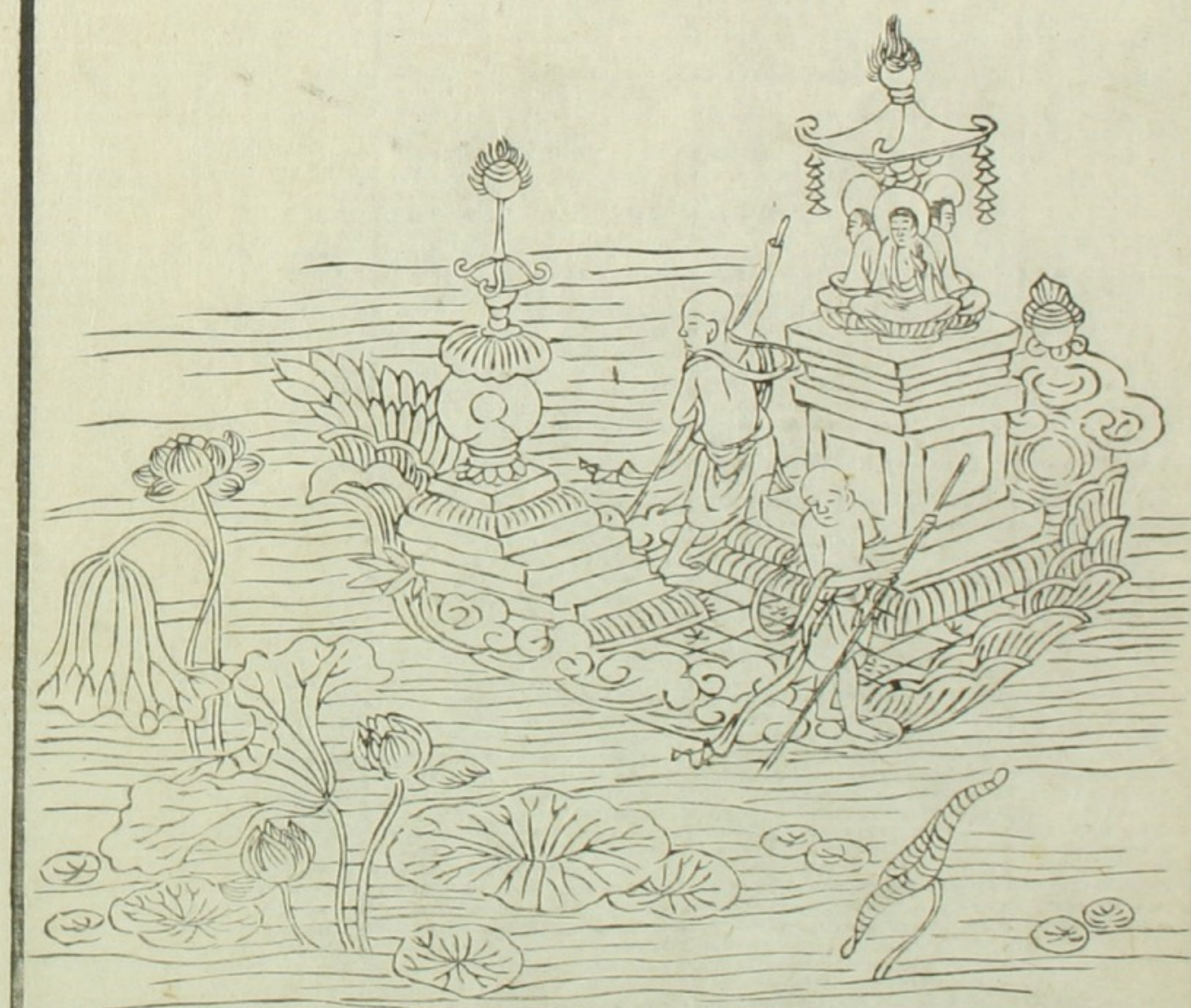
左有寶船注私釋曰此船中方壇上有天蓋三尊壇

尾上有小塔塔前有小童其下有菩薩合掌而坐右二童同

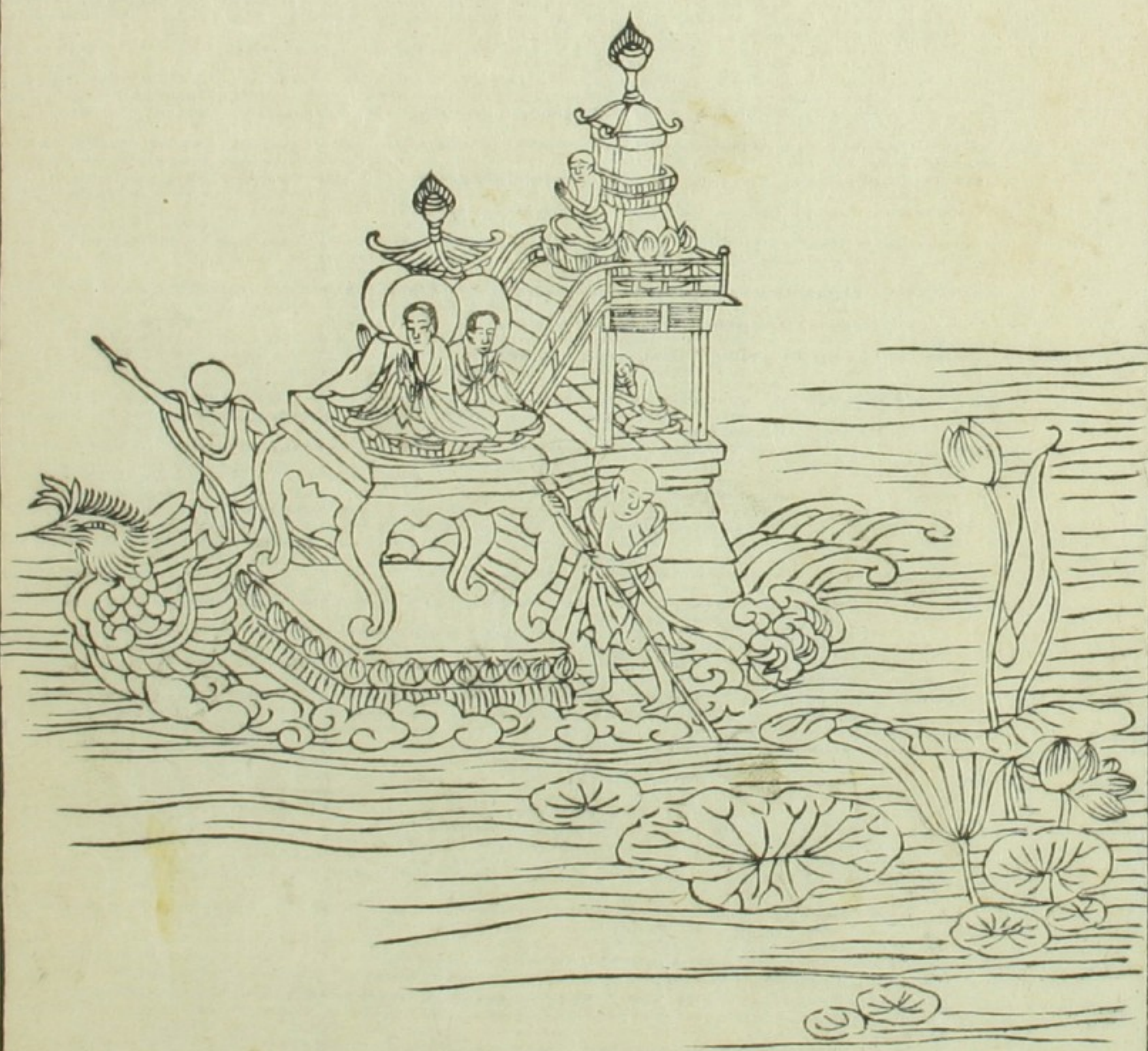
棹三尊印相同右古注此二船名龍頭鷁首云是也實龍頭鷁

首搥而船異名也其故祝船馴水名龍鷁水鳥名以船似鳥名也

右寶船



左寶船



遊歷船

當曼自記曰寶船觀經未見答文無義有義者既有寶池故可有遊歷船問何由今顯之答此曼陀羅多順釋文但此船亦見釋文般舟讚曰寶樹飛花沆德水童子捉取己為船乘船直入蓮花會云云如此文寶樹花落寶船又沙門仲默為蓮舟蓮花即舟因乘名舟歟水歡詩曰只待蓮舟促到家矣抑船起者於和朝天神七代時天盤據樟船王姬時是船神也此神姿變作船天降地神初也又於唐朝者黃帝貨狄見揚一葉浮水作船云云今此以二船顯極樂海會船多此船淨土莊嚴有德一聖眾遊曆具也一娑婆來迎具也於娑婆號大願船

大願船

清淨覺經曰阿彌陀佛與觀音勢至乘大願船生死海就此娑婆世界呼喚眾生令上大願船送

着西方若眾生肯上大願船者並得去

七寶船

緯禪師歸依曇鸞法師祈往生頃唐貞觀三年四月八日道俗集其寺石壁為如來降生之日且

見鸞法師於空中乘七寶船指道緯曰汝于淨土堂宇成但唯報命未盡耳復見化佛菩薩飄在空眾為驚歎大生信服雖無種眾無佛聞提亦所服之

往生船

如道珍法師夢往生船

波羅密船

華嚴經曰以波羅密船於生死流中不依此岸不着彼岸不住中流而度眾生無有休息



弘誓船



ちうひの舟といふハ^ヤカキ^ヘカキ^キ又^キ成生と彼^キ又^キなるらんち
うひ^ク舟^{セイ}一^イ弘^コ松^ク云^クの舟也二十^{ソウ}名の菩薩^{セツサツ}樂^{ガク}と奏^{ソウ}一^イ雪^{セツ}と
来^キ迎^イて^コ松^ク云^クは^コ引^イ倡^{コウ}の^イ國^{コク}の^イ方^{ハツ}り^イ世^セの^イ苦^ク海^{カイ}と^イ渡^{ワタ}り
あ^キの^シ存^ソよ^シう^イ秋^{アキ}氏^シ完^{カン}悟^{ブツ}の^セ弘^コ筏^{ハツ}なり
今^{イマ}迄^{マデ}

世よりゆるちうひの舟をねむぢうき満る身ハ志のめとも

彌陀之御舟

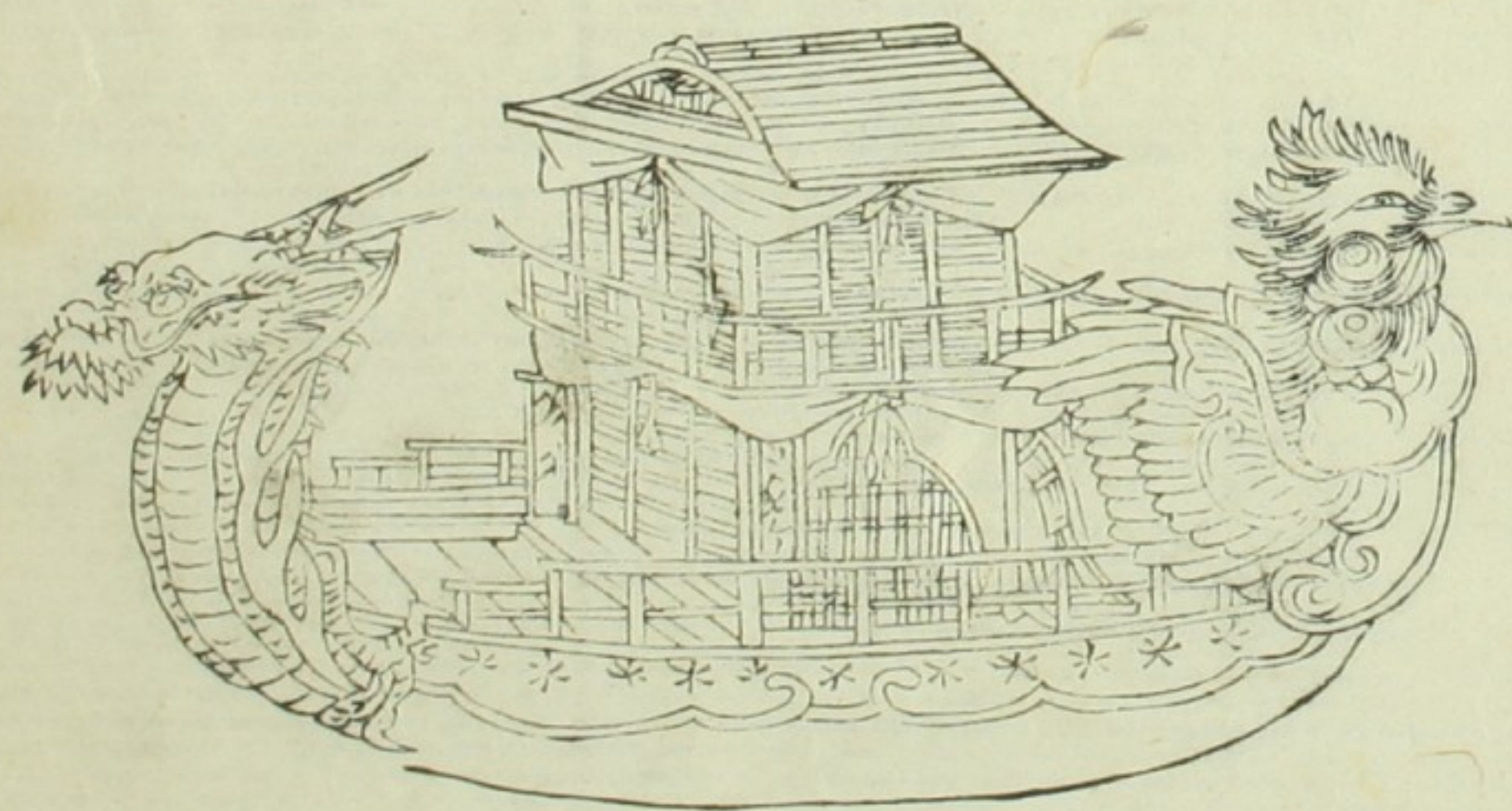
三浦義村 延陀末途の取積と經營に淨蓮
房と云者十餘艘の舟より衆を云のこまびかり

幕をけし令根玉女七宝花嚴のありさぬ極示世
界もろくようまうと強念三代化よるへしり

風雅

いそひ人海院の所舟れかゝ世又素おくれまいつうきうん
聖徳太子

龍頭鵠首之船



天の川舟 彩ふ哉 公船 久方の月れくくの橋となえふけてとる天の川舟

月れ舟 内参 中勢みこ その川月れ舟乃のやりせふみく光やとる玉は

秋のふね 赤えね百そ 西を 天の川秋のふねのまくりまこととるこちり

八十瀬舟 彩ふ 衣笠田太 その川八十瀬の舟のふねは二夜とせとたれちきり

天は雲舟 彩ふ哉 飛浦 七夕の天は雲舟こよひを秋風ふきてまはる雲が

秋漕船 後橋松三 浪のうきききは老星の秋く舟の波のさへく

又漕舟 万葉 この夕アゆりくく西は老星れみく舟のふねはくも

又舟 日 又舟今ききくは天の川雲まきくこれ川のせよ

時舟 日 その川八十瀬きり合老星け時舟今きくく

たふ舟 日 老星の川瀬きくくたふ舟のふねはく

別の舟 五二 七夕れ別の舟のうきくせくくくその川きり

舟 貞和 老星の妻むくく舟のふねはくく

貝穂船 クホッ子 八雲舟おこ七夕の舟とるくくく

浪又舟 日 浪又舟のふねはくくく舟のふねはく

紙舟 カニ 紙舟は亮笑曰紙船耳といひ其破りあき

紙舟 ヒナレユ 紙舟は亮笑曰紙船耳といひ其破りあき

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

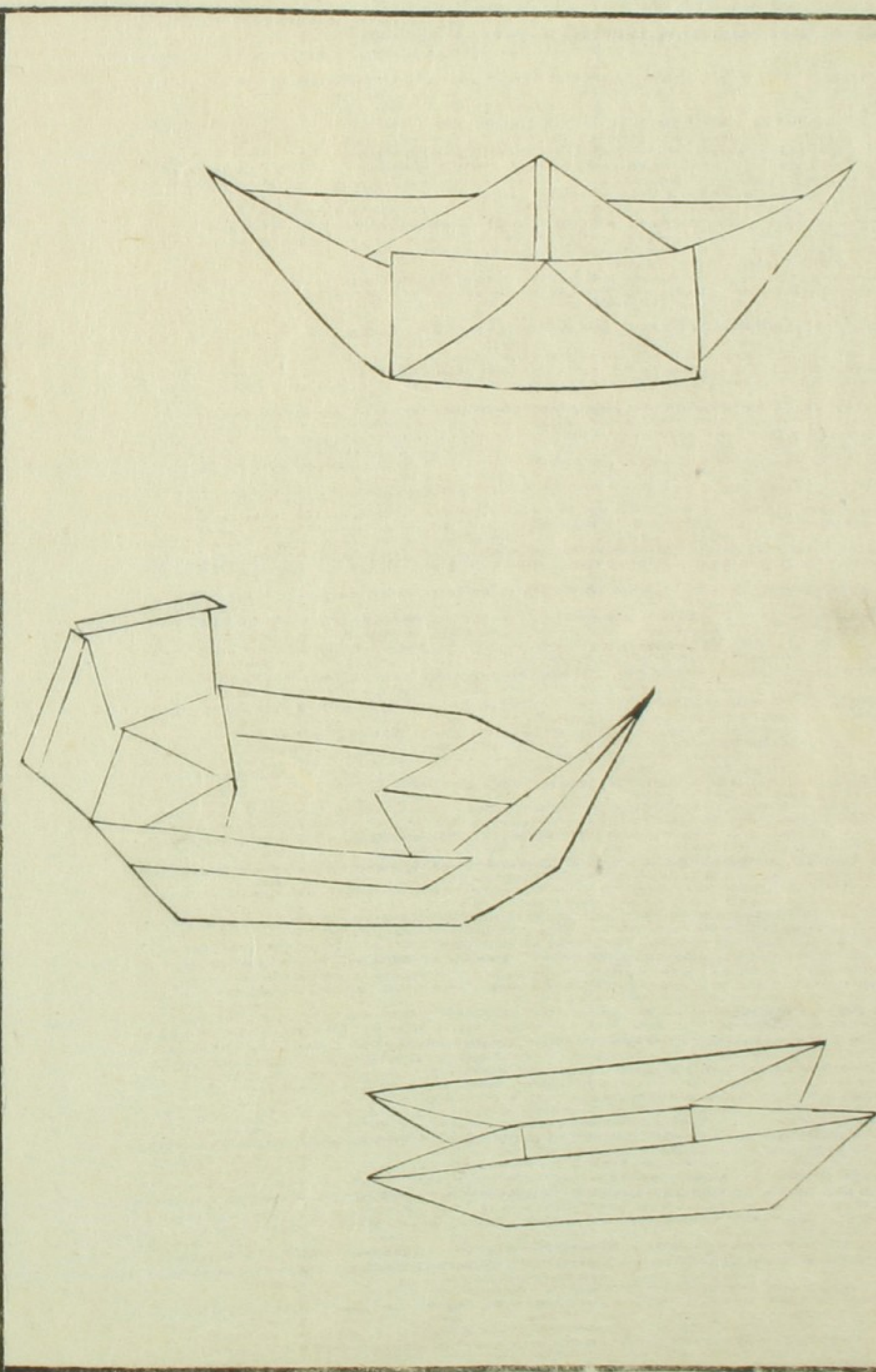
七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

七種の舟 ヒナレユ 七種の舟はくくの雲七と舟は接て七夕たむく

紙舟



非舟為船之部

葦船

塩土舟

白藪皮船

土船

以上三名神異の事は委しく申さるる
 土船 舟の形はあつり唐敷函ふ又彫とつるより晋
 書は曰昔武王の種山崩るる石宛二つあり其ハ
 赤と丹の二つあり一ハ黒と漆の二つあり赤宛より出
 るる名を勢相と云黒宛より出る者凡そ人ありは人争
 て神とあつる者船は彫てはる者といて塵芥とせん
 勢相の船いりほる人遠くを塵芥とせんといり

螺舟

蠡舟

貝船

徑舟三より入る

蓮葉舟 右文獻集曰大華峰頭玉井蓮開花十丈藕如

蓮花舟 又曰大乙真人蓮葉舟

水歡詩あふくく

虹舟 列仙傳云王仲都大白真人授以虹舟

採蓮船 同張金箔以紙剪作一船

瓢船 莊子曰五石大瓢為舟浮于江湖

竹船 山海經云衛丘之田有竹大可為舟浩曰節竹為之

竹葉舟 異同實錄曰陳季卿云人知有季卿

まがききよは清くくくふふは雲瀾の國のり季卿指
て曰いつんそ渭より河は遠くくくくくくくくくくく

終南山の公府のり笑く曰是かきくくくく令くく竹葉を
おくまはけり國のくくくく季卿くくくくくくくくくく
くくく波浪おる葉舟巨くくくくくくくくくくくくく
のくくくく白飯くくくくくくくくくくくくくくくく
まがききよは遊く山に尚裾を擁くくくくくくくくく
くく夢はくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくく西齋くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くく唐の李嶠くくくくくくくくくくくくくくくく
まがききよはまがききよはまがききよはまがききよは
けき判者陰補給云くくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

つぎおひとりのさちほはうのえすや折本のさや舟たふり
しふふもふふより中流あふり―おれさのあふり
きこるさやふりつりてさのさやふり又人のさや
お船とふりふりやふりさふり

水邊比船之郡

毎舟 ^サ 八雲はかよふふりさやふり有竹さの舟に日
あふれもか遠あり竹のさやふりさふり
神仙のさやふりさのさやふりさふりさふり
さふりさふりさふりさふりさふりさふり
さふりさふりさふりさふりさふりさふり

毎舟 二系院漢成

夫木
うみひふり

流ふり

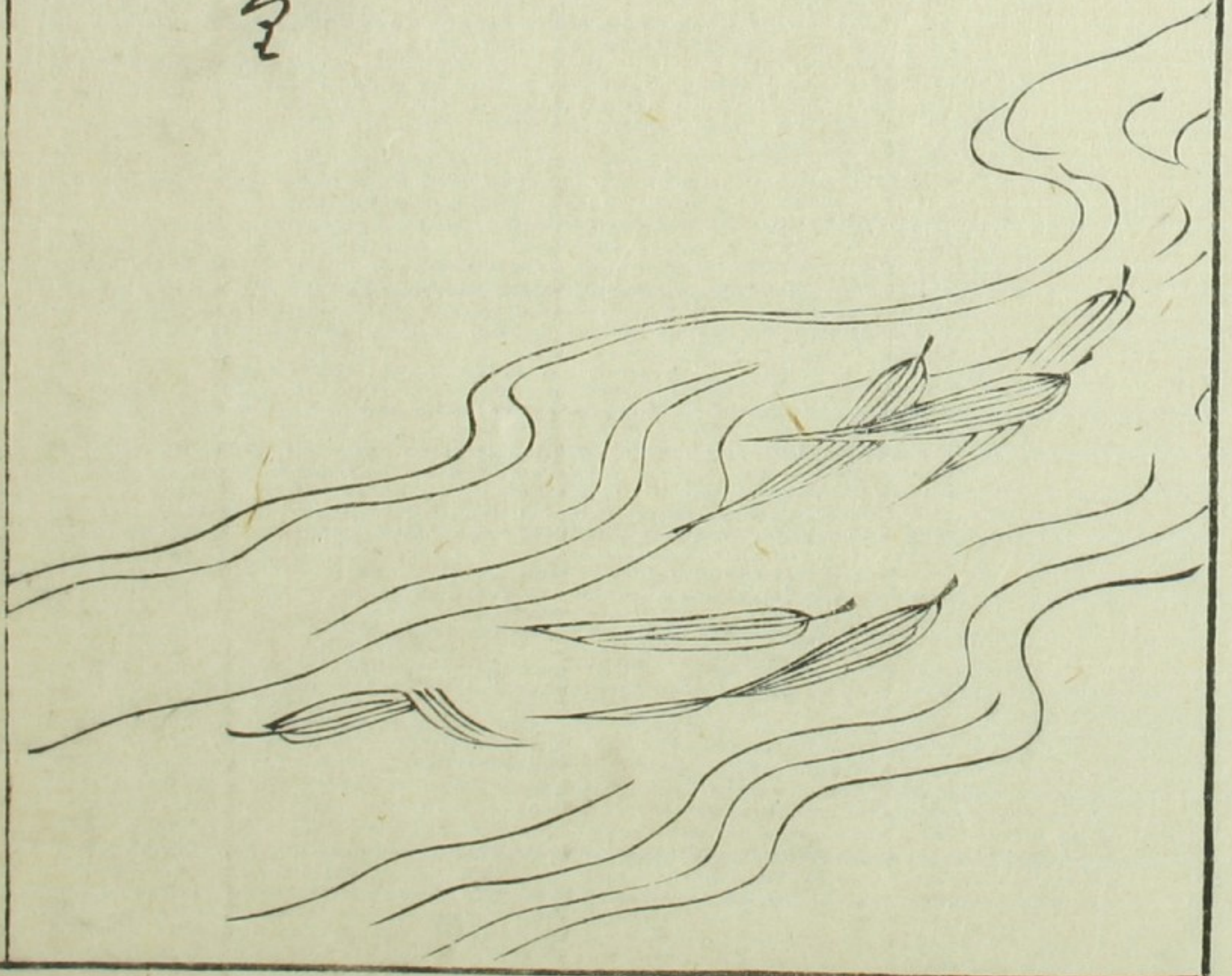
毎舟の

とまりハ

その

水なり

やふ



コノハフ子 同名お遠
本葉船 おきふる

古今 白波ふ 無風

秋の本葉れ

ううう城

あす乃

まうせう

毎うとそ

アム



モフ子 名教は同名あり
藻母 是ハとよめる

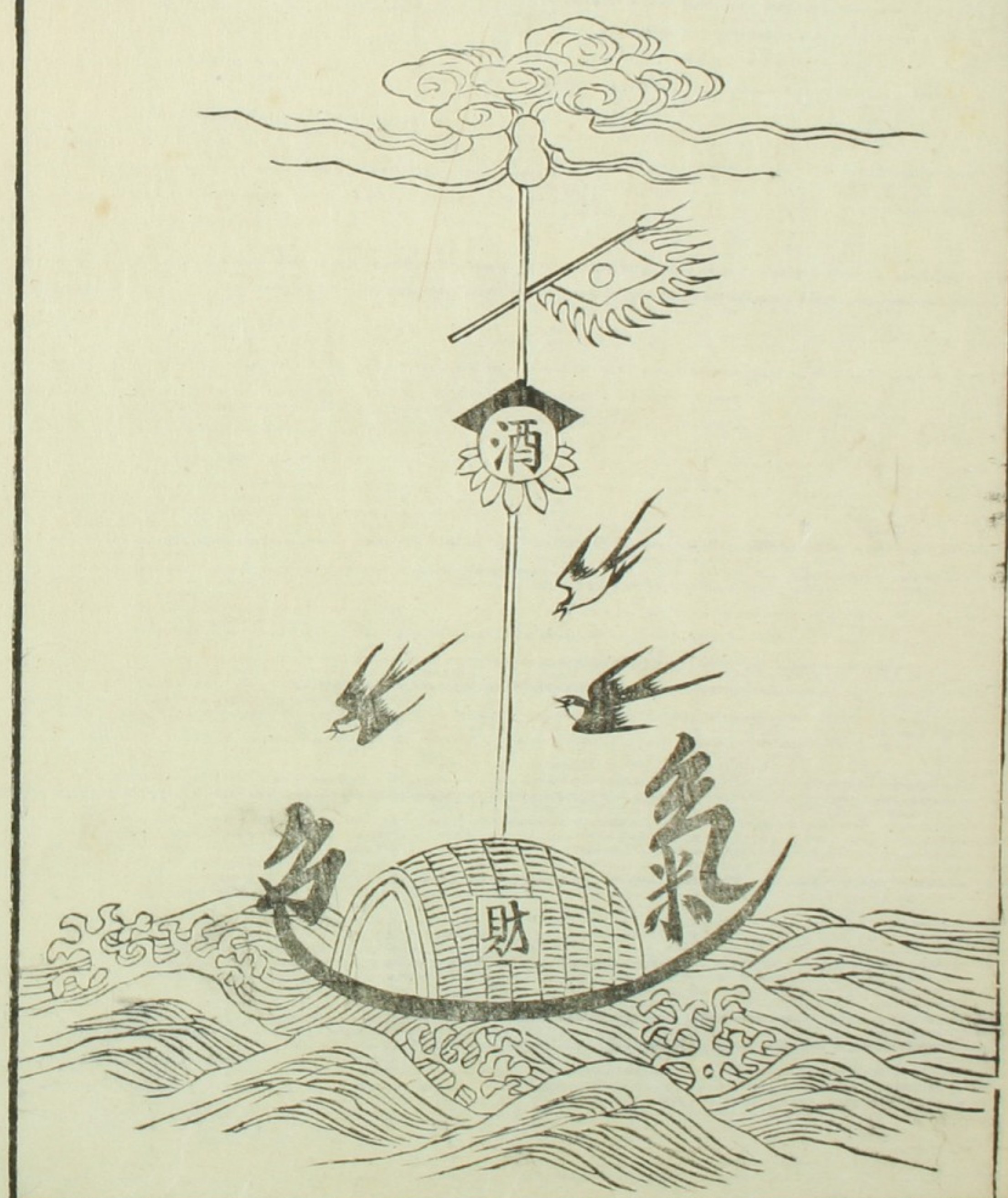
川の流れはうつくしけれハも新なりれハ川のみくも人

アクタフ子 莊子覆杯水於掬堂之上則芥為之舟置杯
芥舟 焉則鰈水浅而舟大也

シエシヨクサイ 後漢の楊秉字叔節字徳とありめられく桓帝ハ
酒色財船 百おされニ公の大尉れ官ハのあり忠とつて

ハ桓帝之徳の義されも楊秉ハ潔白として丹誠を挫すに
より大方疎をもいれもと楊秉生侯酒とのまことと
今すた又そく書と共ハ二夜夫人をむくはる曰我
ニッれ惑るなり酒食財也酒ハ人の心をわくハ弱らせぬ貧

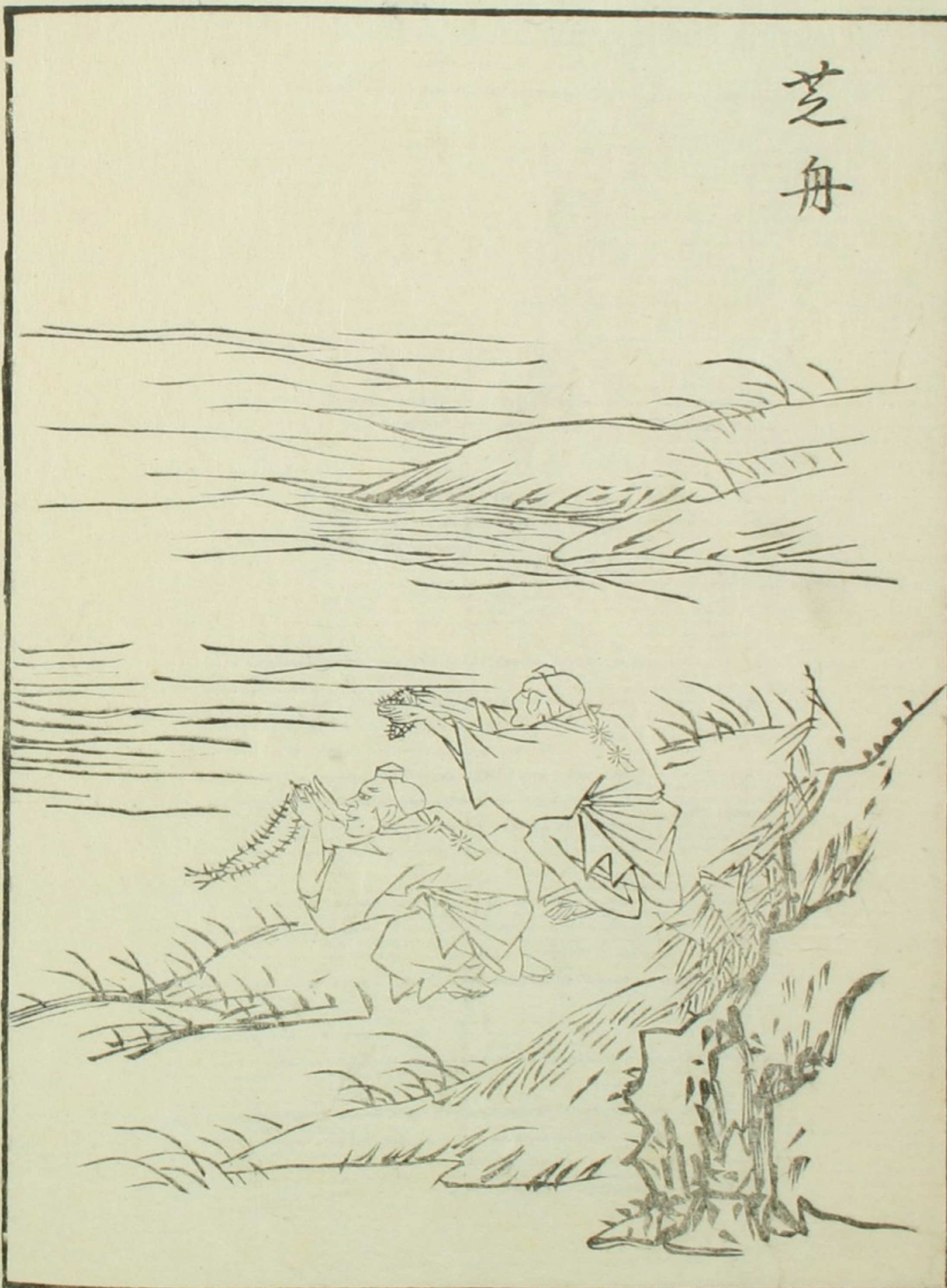
酒 色 財 船



也世は三劫の字を以て舟に載せし一國を以て教戒とて
 本教故事因縁集は日出所の國大泥村と云然度
 芝舟 他より毎年参りあり薬師佛をあ置して

田所八日はこれをまつるを教田十八箇あり皆山伏
 たり所領なるも有りまづ芝舟は他の諸所のそん
 て大いなる財は芝田又天福さけくはようそわ
 ゆうやこれと芝舟と云ゆくあそひたす人
 よりふあつてそそ芝舟の西へは入りて地
 るわのそとへはく不名後のまよりなりと國よ
 りまてえおきとるなり

芝舟



舟

有舟名別物之部

字彙曰尊下臺曰舟ト ユエニナリスムルソント所以薦尊

與彝也トライ如今之承盤コトレノ セウハシノ レウライニクハスレニ周禮裸

用雞彝鳥彝モトユケイイイテウイイラミナ皆有舟

博古圖及三才圖會ハクコツフウヘ有

委クハ一クハ二クハ三クハ四クハ五クハ六クハ七クハ八クハ九クハ十クハ



御船^{ミフネ} 神道名目類聚抄曰遷宮の時御神體を圍覆を具布を以て之を包む

屋船^{ヤフネ} 同抄曰御船代御鎮座本紀曰天材木屋船の靈を云故に瑞舎を名付て屋船と号に縁なり

覆誓槽^{ウケフネ} 古語拾遺曰覆ハうつふけ也槽ハ涵ふといふ也等桶の形なり日本紀祈或ハ誓言とすうけ

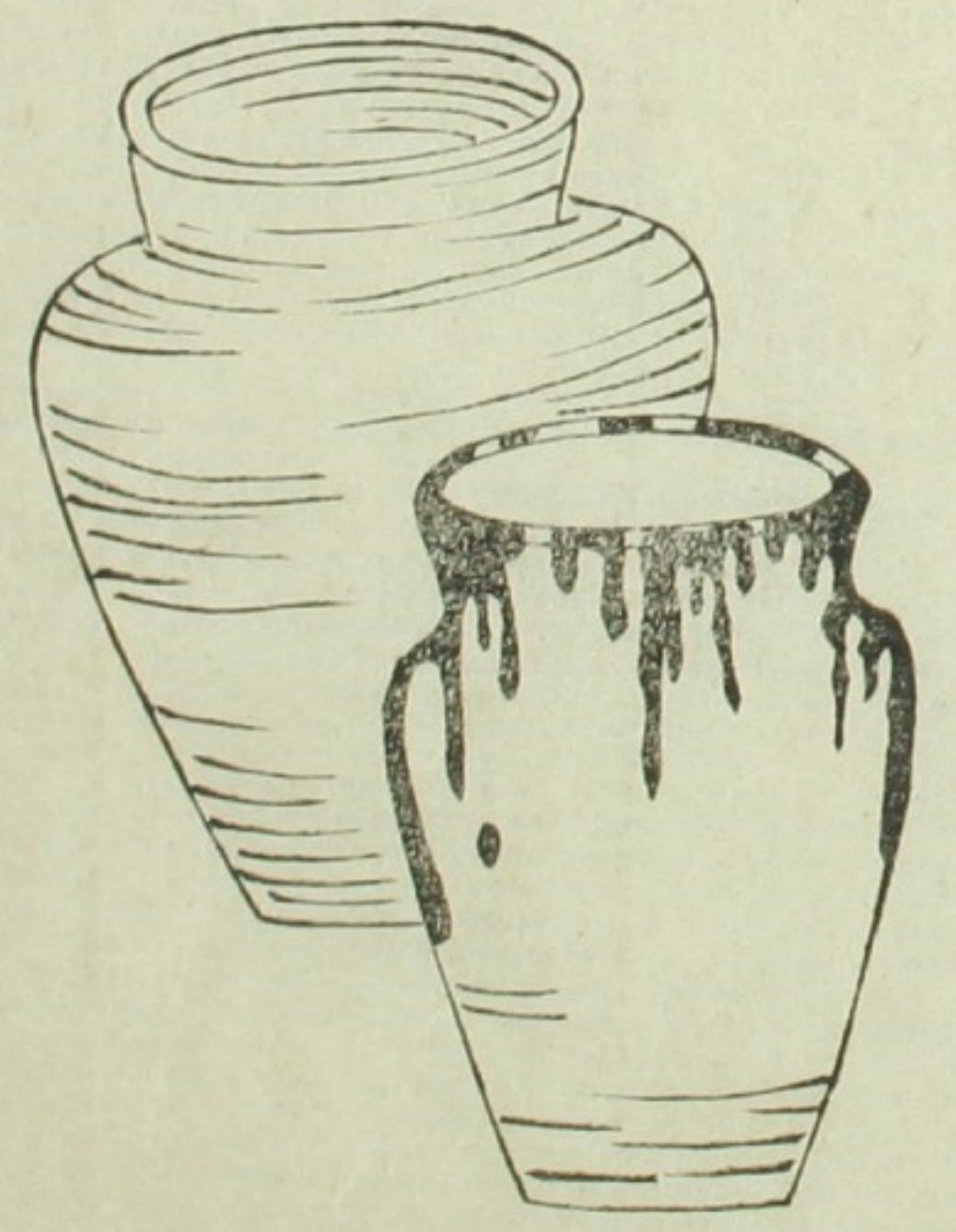
いとも云古語宇家布祢誓約の意也

不上船^{フナリ} むろきあそびと後り杜甫は天子呼來不上船は衣領を舐と云

上水船 梁張旧為學士號急灘

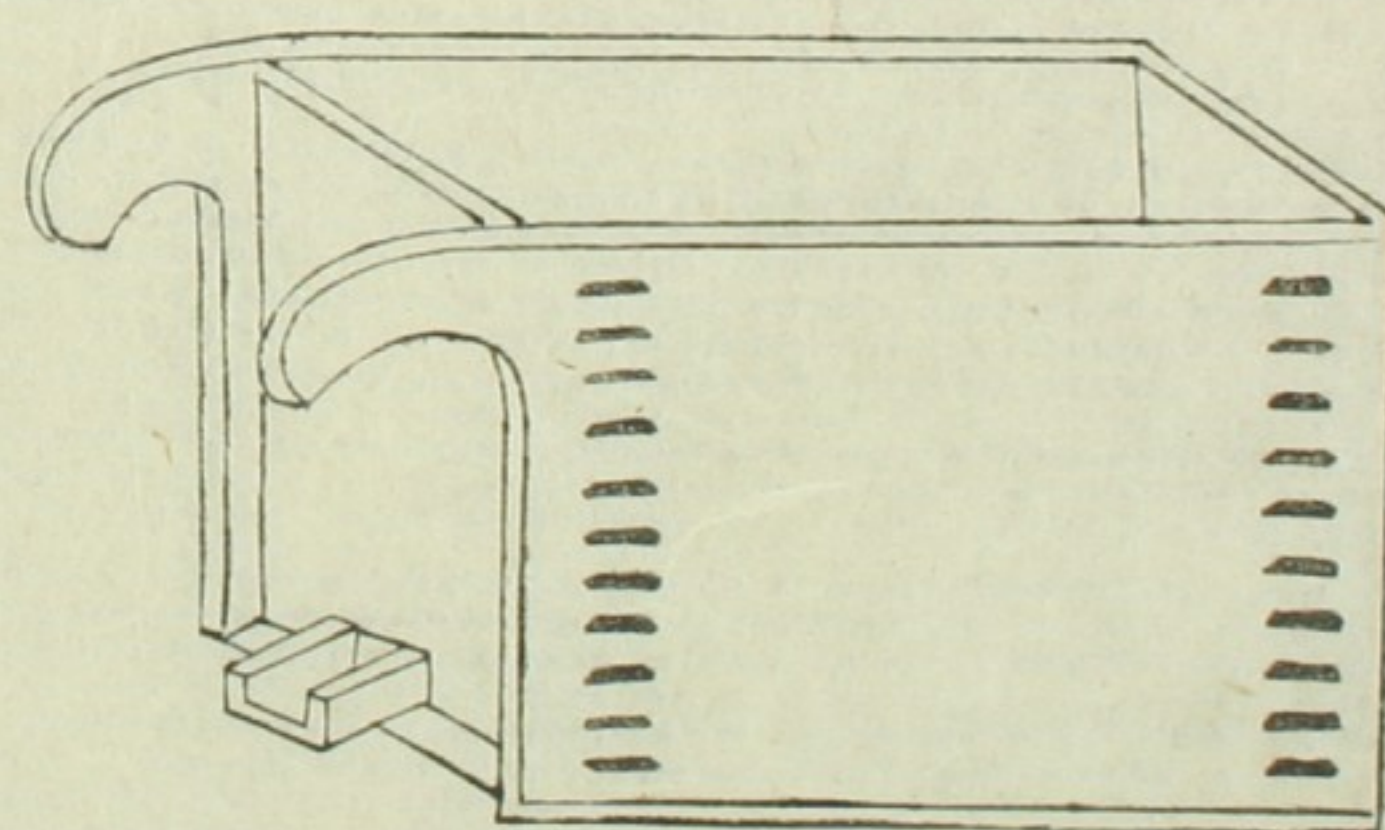
下水船 唐裴延裕文思敏達號

酒船^{サケフネ} 名教より有青とて呼同字別物古事紀曰置酒船而每船盛其八鹽折酒と云へり是博古圖に有処の舟より囊壘の形也



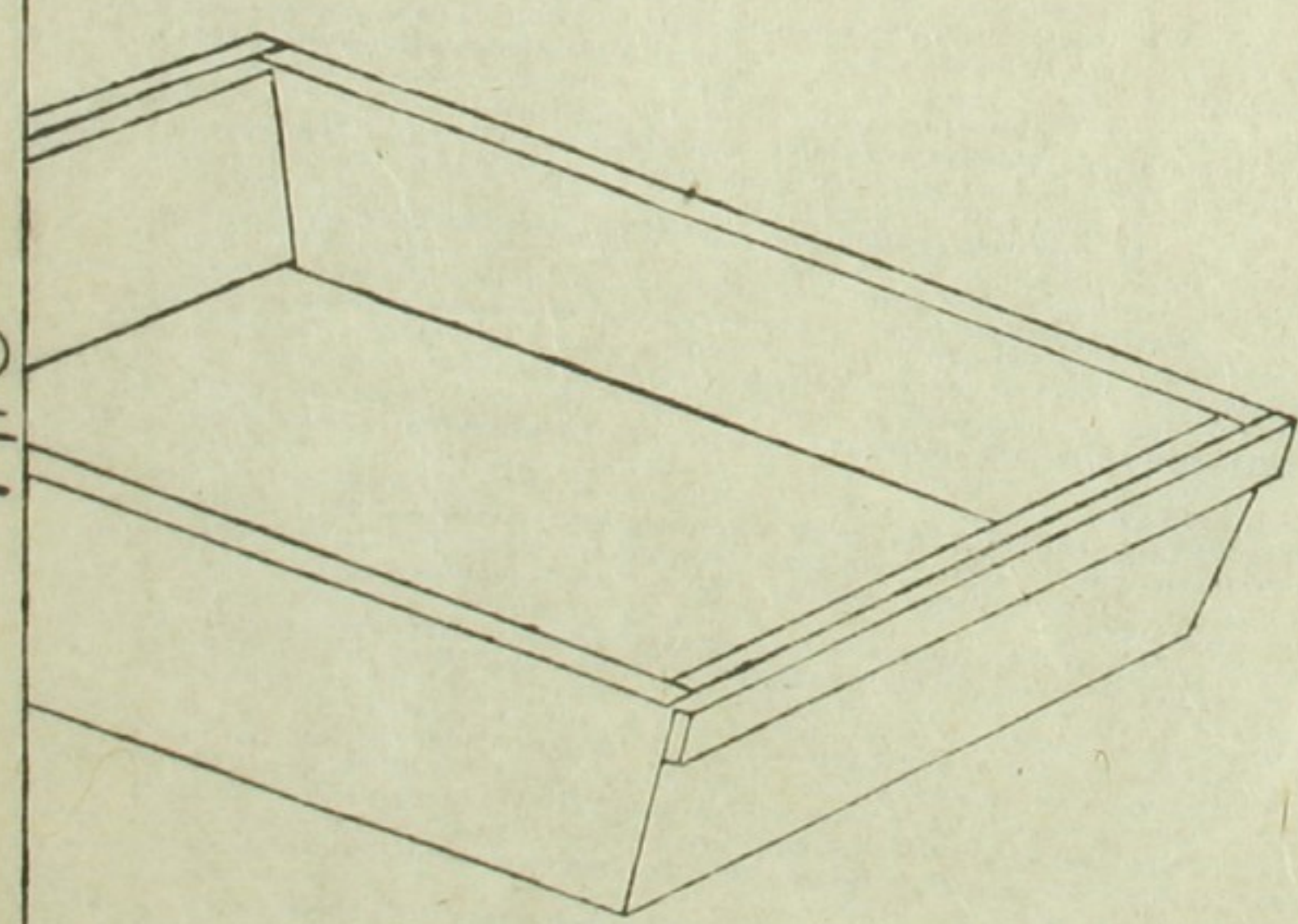
酒槽 サカフ子

今酒船とまゝ通し用酒を造るの器なりある
云酒船又名穀の酒船ニ物曰字一して其形別物也



米槽 コメフ子

船通し用米とまゝに器なり也米船と云ふは
穀船といふの器なり



餅モチ槽フ子
 餅モチと名トル香ダイく又餅モチと名トリあへん
 餅モチと名トル香ダイく又餅モチと名トリあへん
 餅モチと名トル香ダイく又餅モチと名トリあへん

子
アサ
モ
子
ヤク、ウツ毛
蚕の忌候
毎とも
カク
第ハコ
二

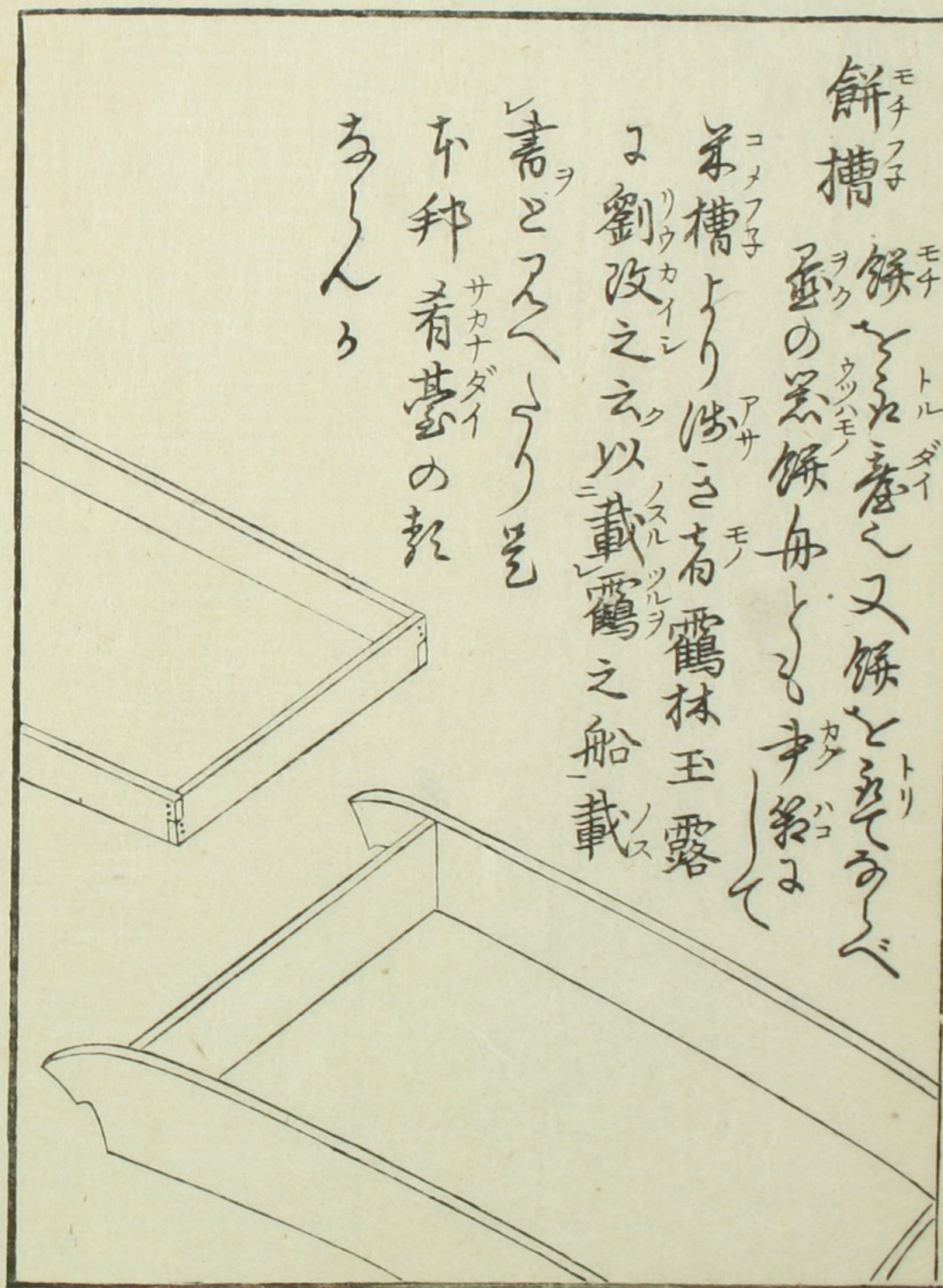
コメフマ
 櫓より
 アサ
 モノ
 リウカイニ
 ク
 ノスルツルヲ
 鶴林玉露

劉改之云以載鶴之船載

書ラとスナクイフハニ
サカナダイ

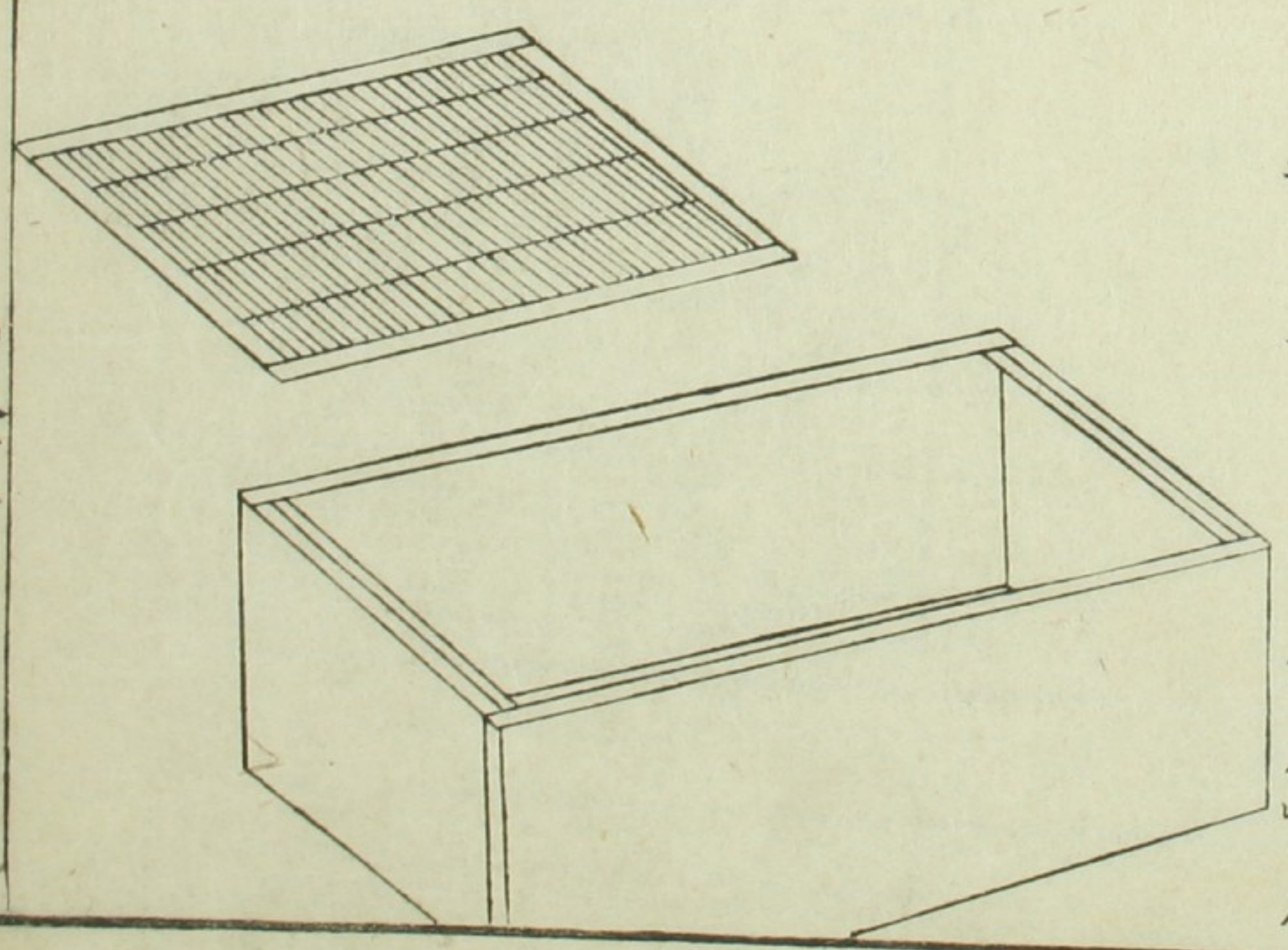
本邦 有^{サカナダイ}臺の類

ちん



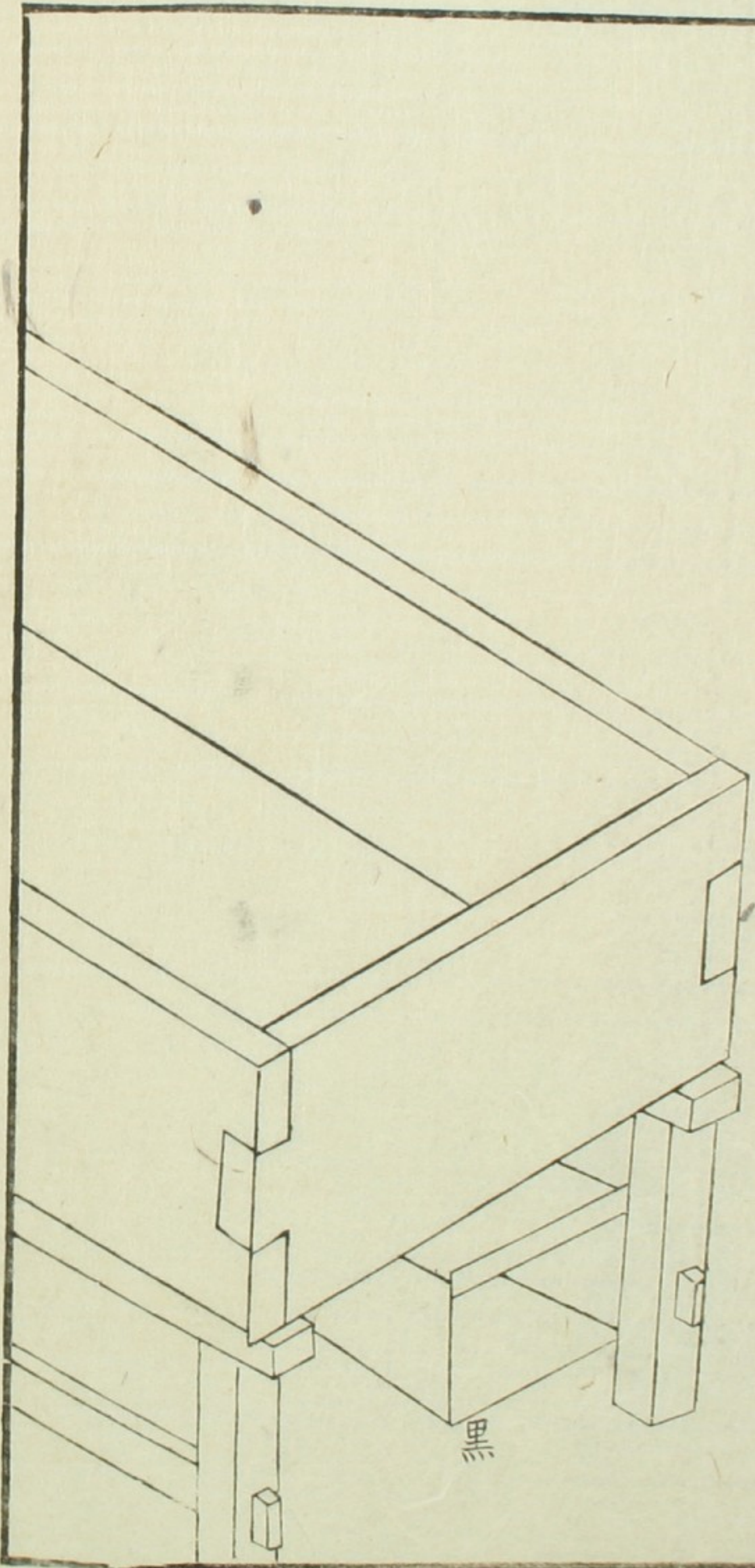
抄紙槽 カミスキフ子
天工開物九一一上合方斗二尺寸闊狹視簾 ヒロセバミメチハス
簾見ス式ヲ

簾視紙スラ



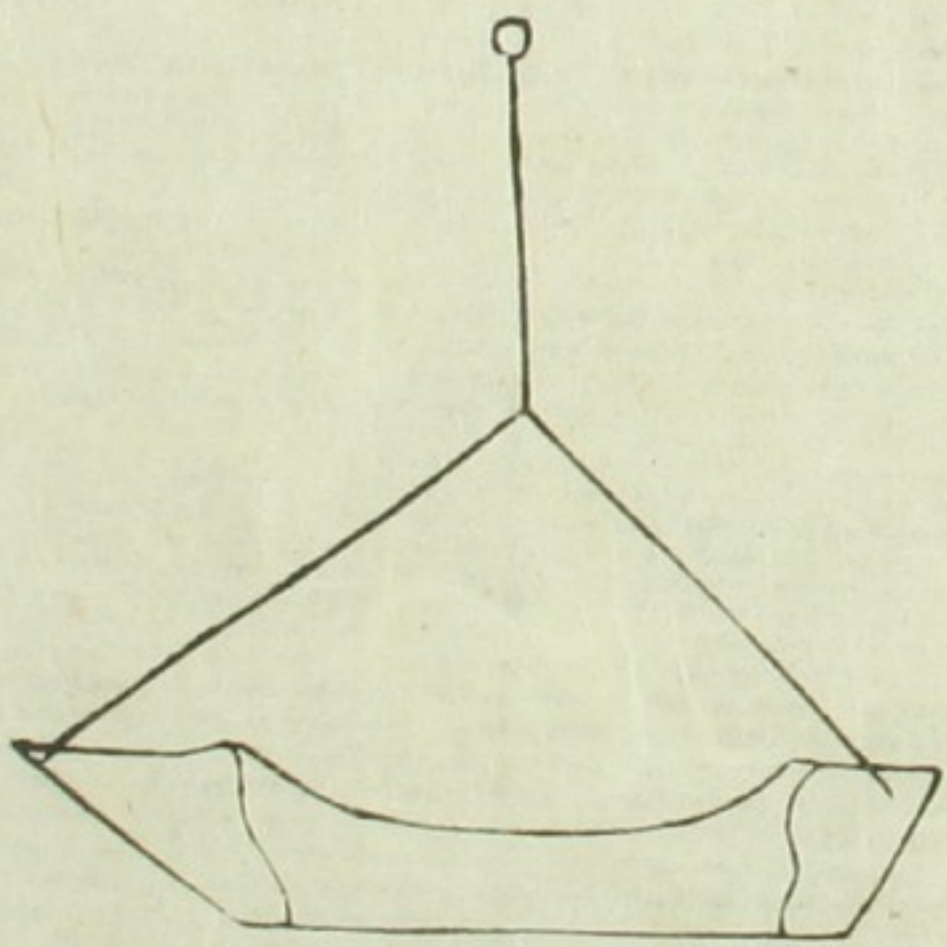
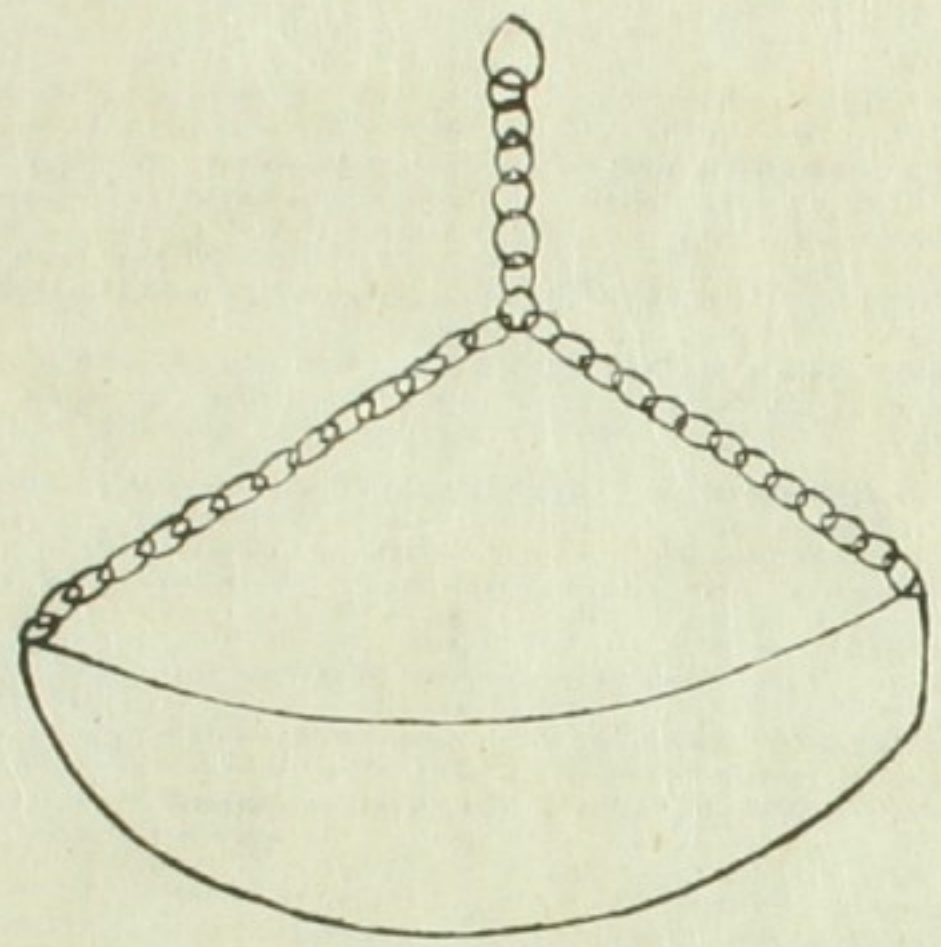
湯槽ユ子

温泉等みち槽ありヨク俗ハコ々々
今風呂の湯舟と云



花生舟ハナイケ

舟の形ツリハナイケに似ておしき通度より或ハ竹を以て作る
物花生ツリハナイケは舟ハ舟舟舟と云ハ花の生板也

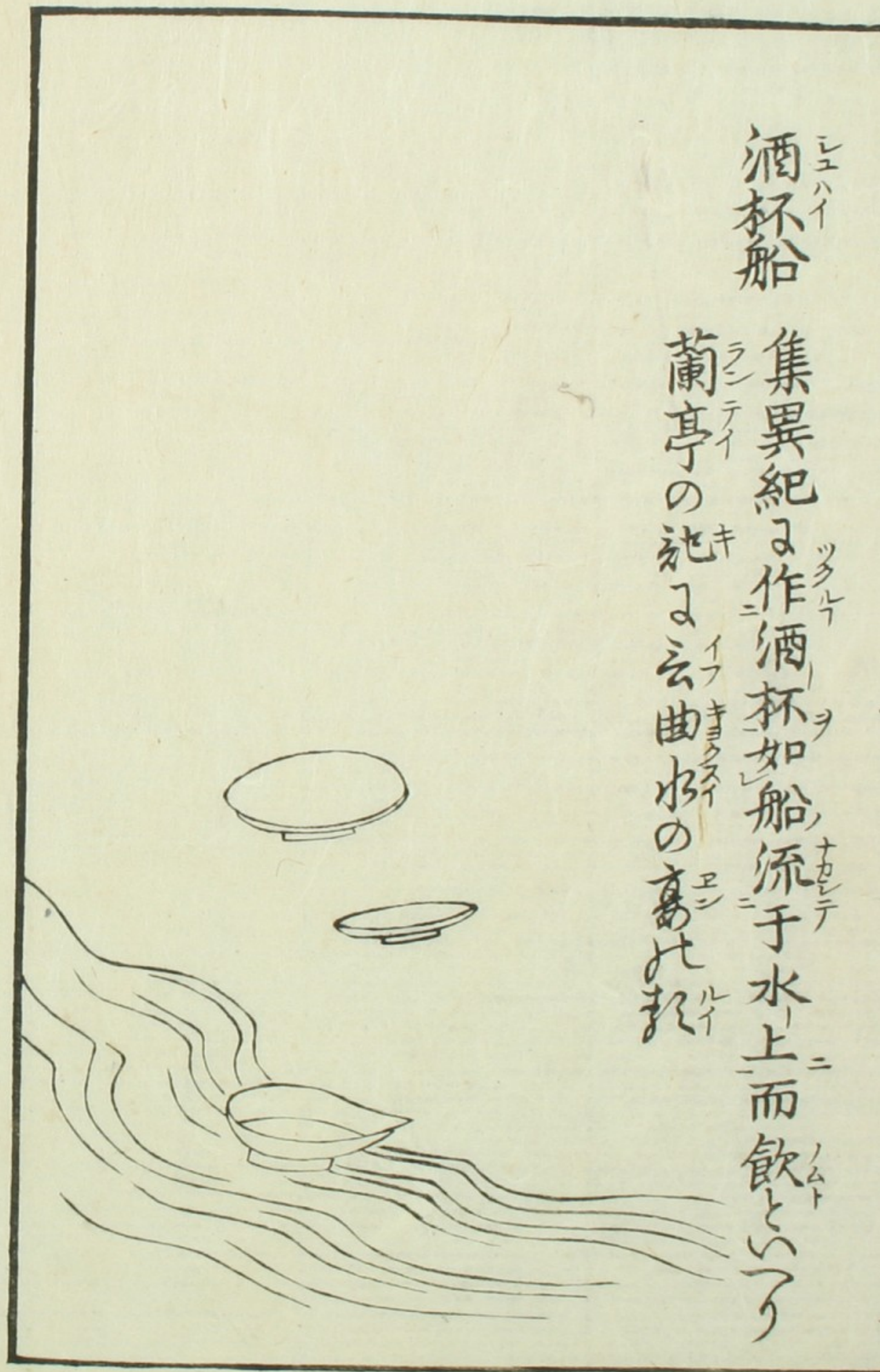


觥船 スハクセン

三體詩觥船一棹百分空注は白くハ酒盃也

酒杯船 シユハイ

集異紀は作酒杯如船流于水上而飲といふ
蘭亭の記は云曲水の流は此也



生船 イナフネ

御也第は水と活魚とを煮て食はるは生船也
云又船の形なり或は第は水とて食はるを

水船 スイフネ

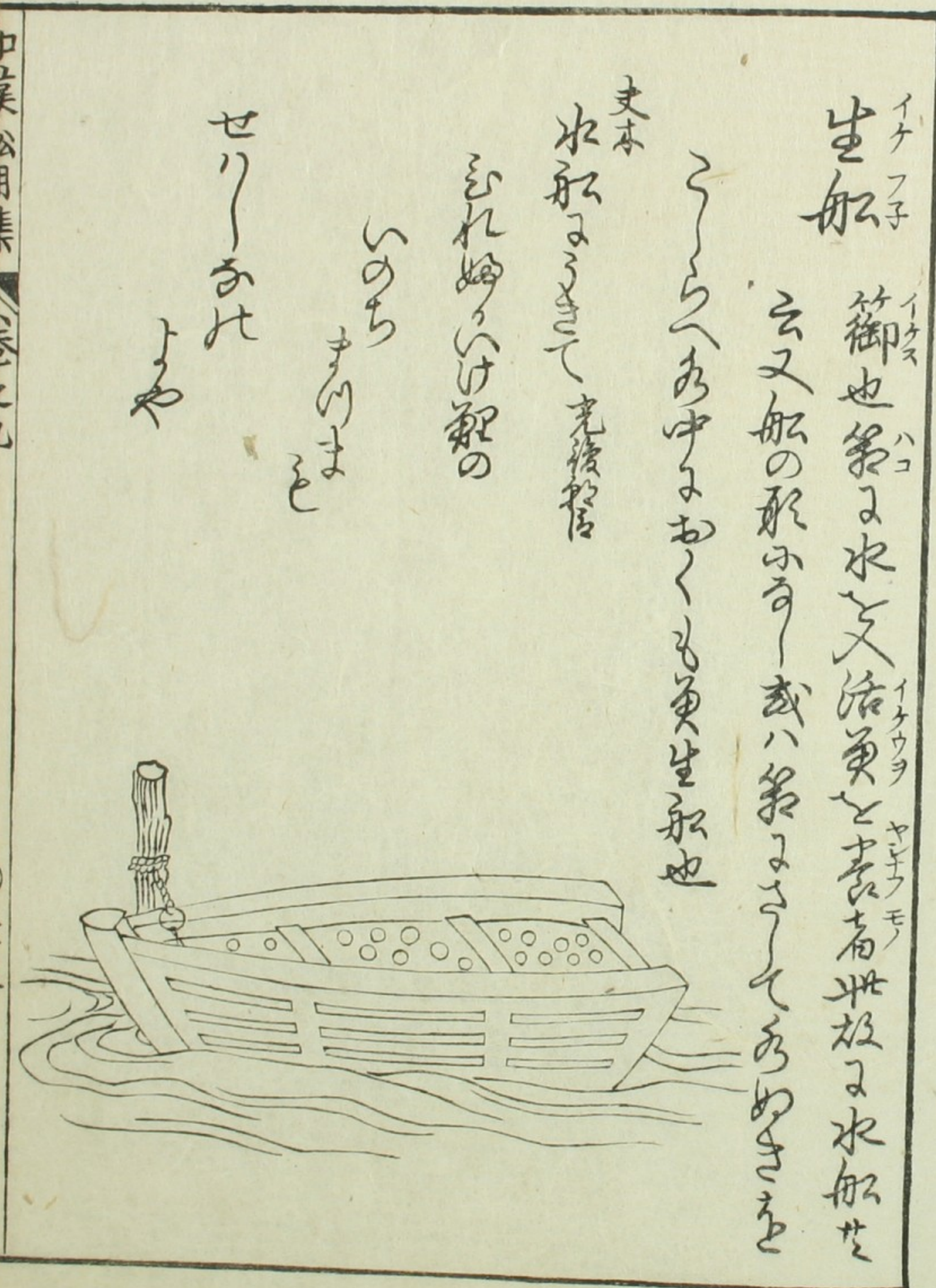
むれ船いけ船の

いのち

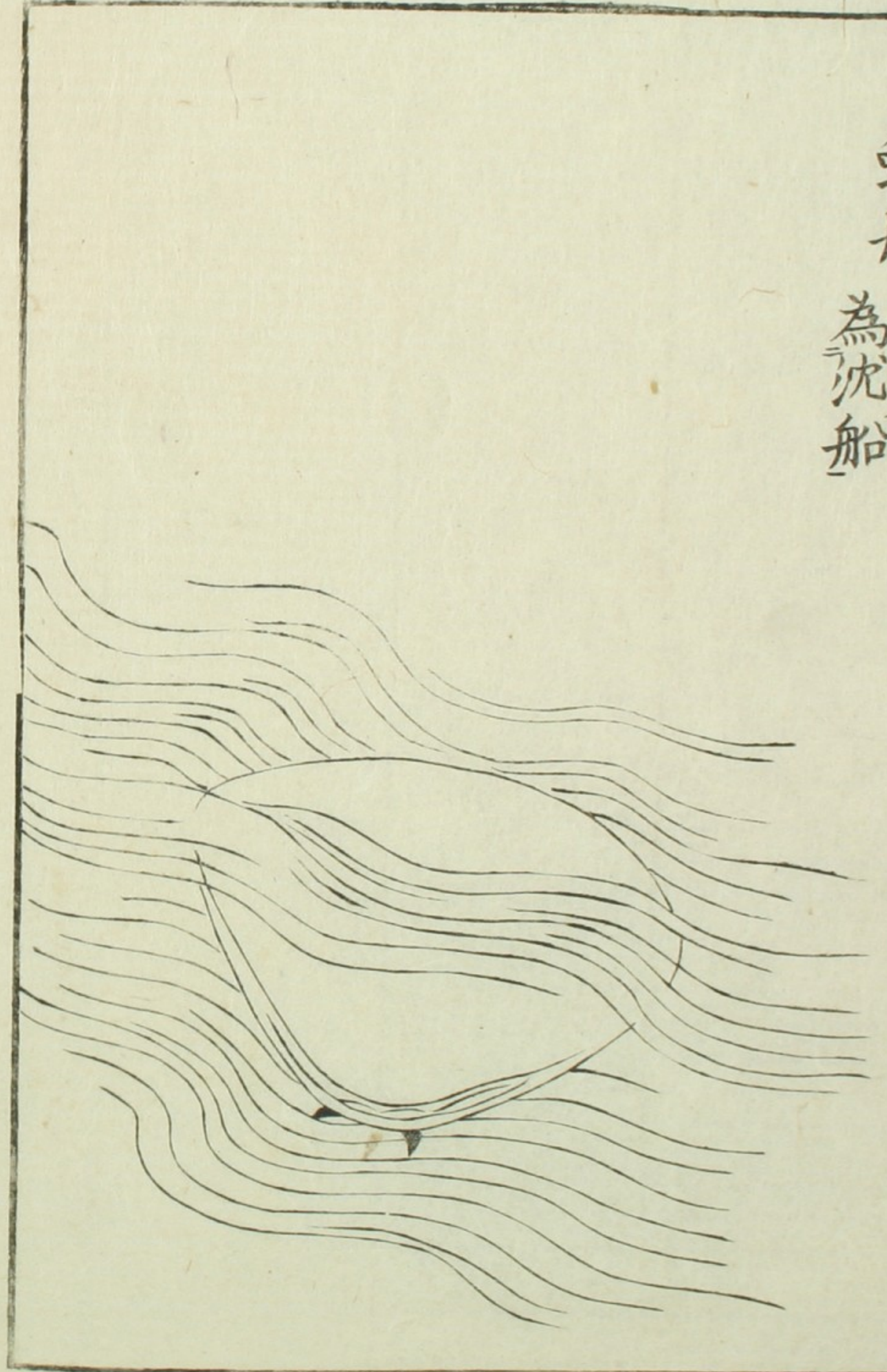
まのま

せりふれ

よや

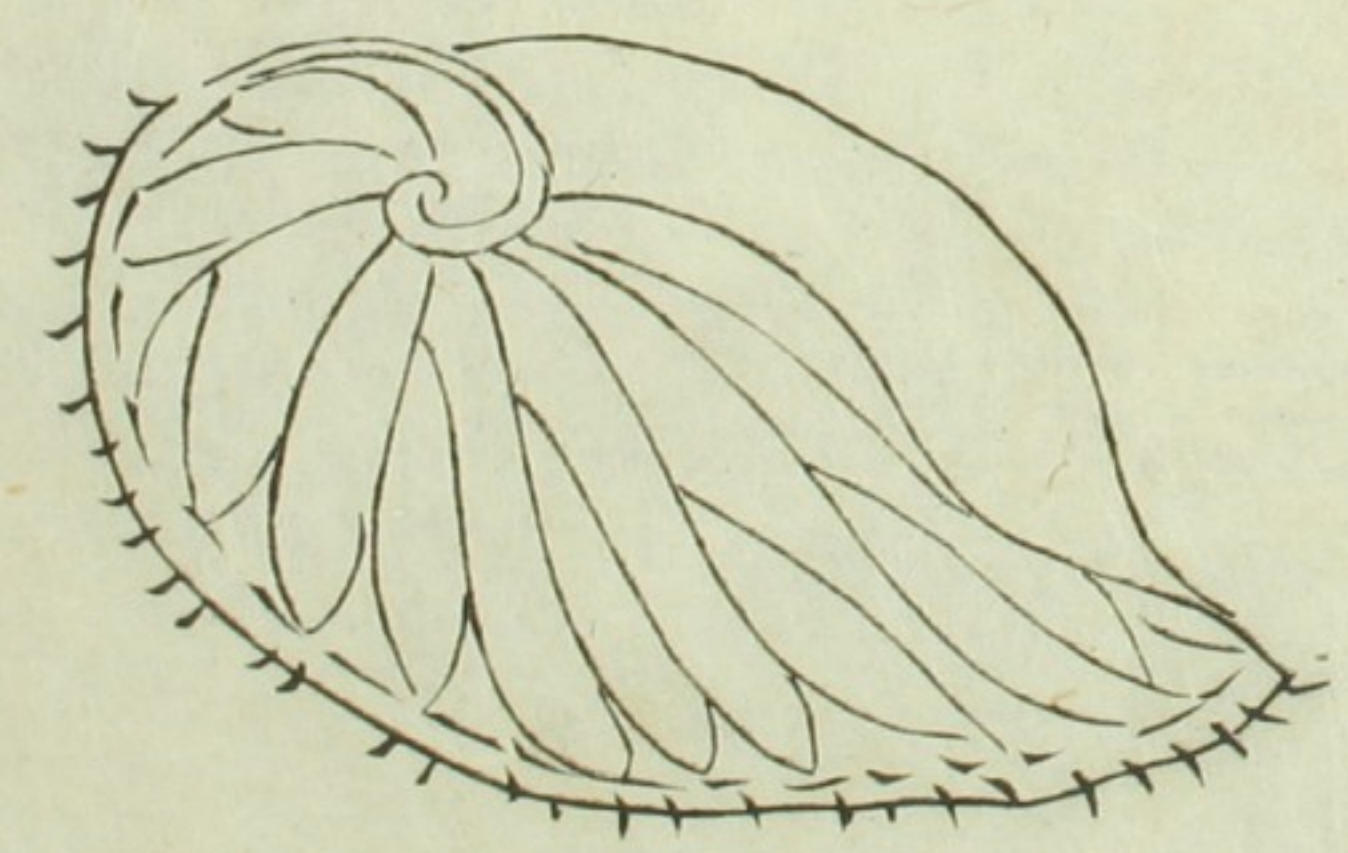


蚌船 ハクリ 五雜組曰老蚌其大如船有浣衣婦以 ミツメル 為沈船 テ



鮑船 タコ

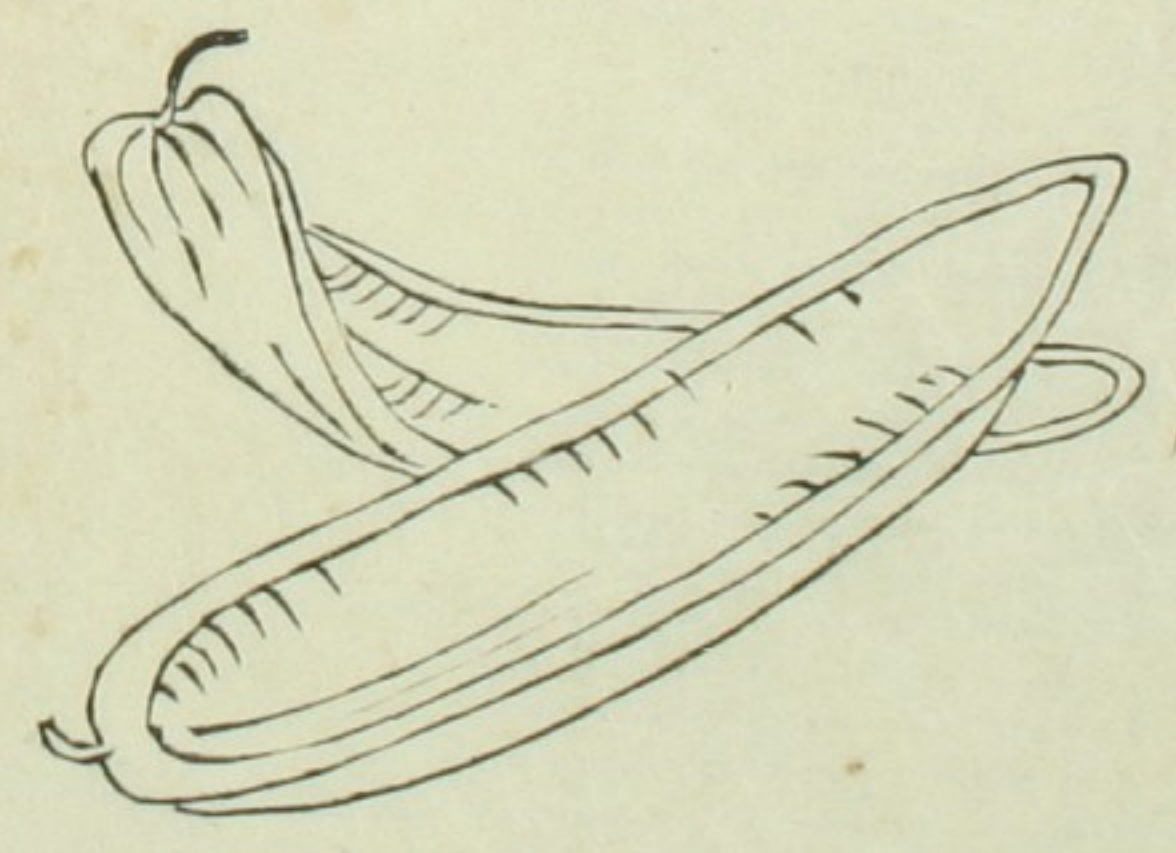
貝鮑之類又章魚舟 シヤウギヨ 乙姫貝蓋 ヲヒメガイ 蓋又曰北國有 ツリハナイケ 貝也其うゝを用ゝ釣花生と云



瓜舟 ウリフネ

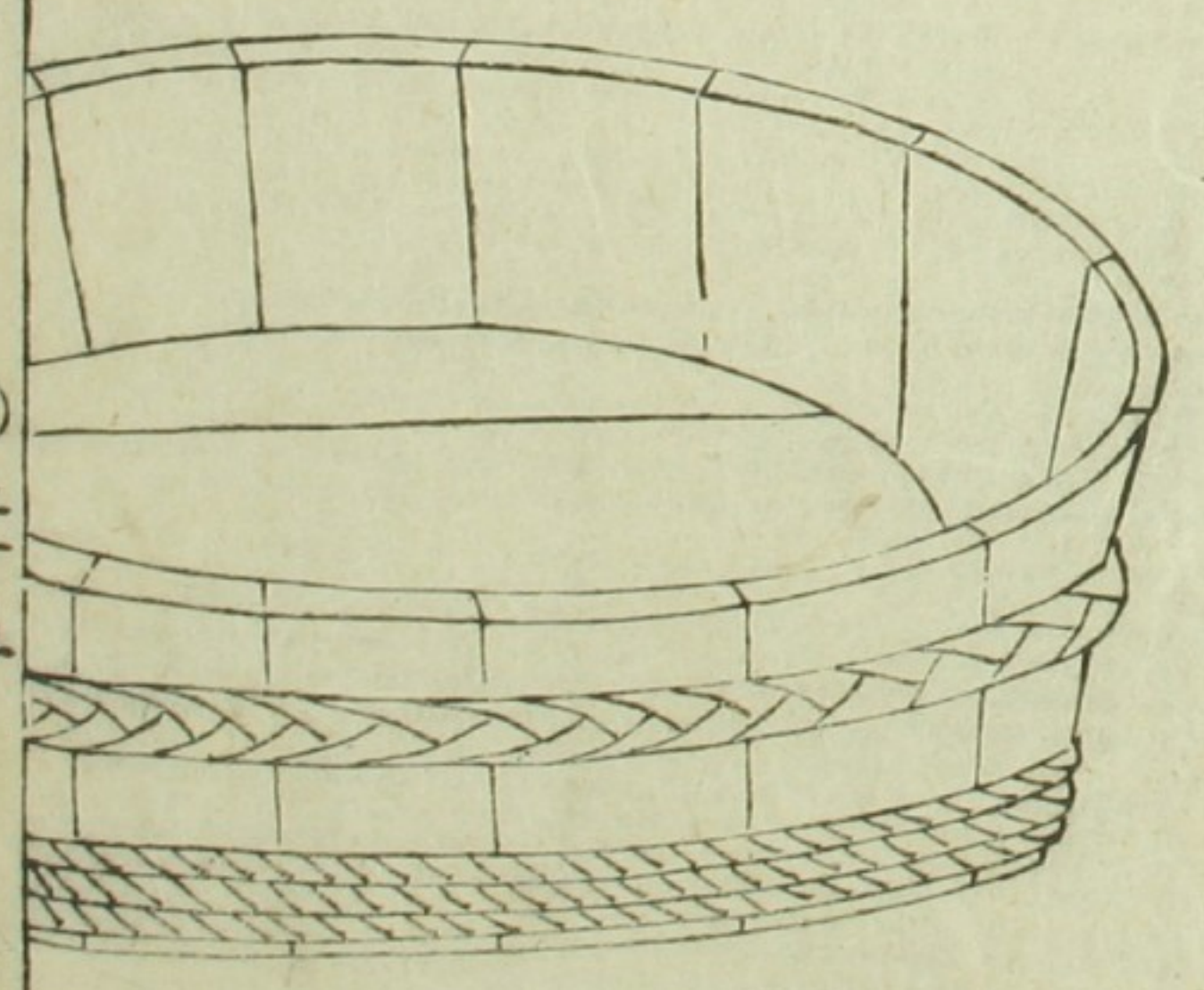
白瓜を二つ小刻て船艫の形といつり中子をとりて
酒糟ツケモとく漬ナラツケおとんをを茶良漬と云ひ二月を二
舟と云ふ又乾瓜ホシヤリはすう漣漬の要白小

乾瓜や塩のう方の拾小舟

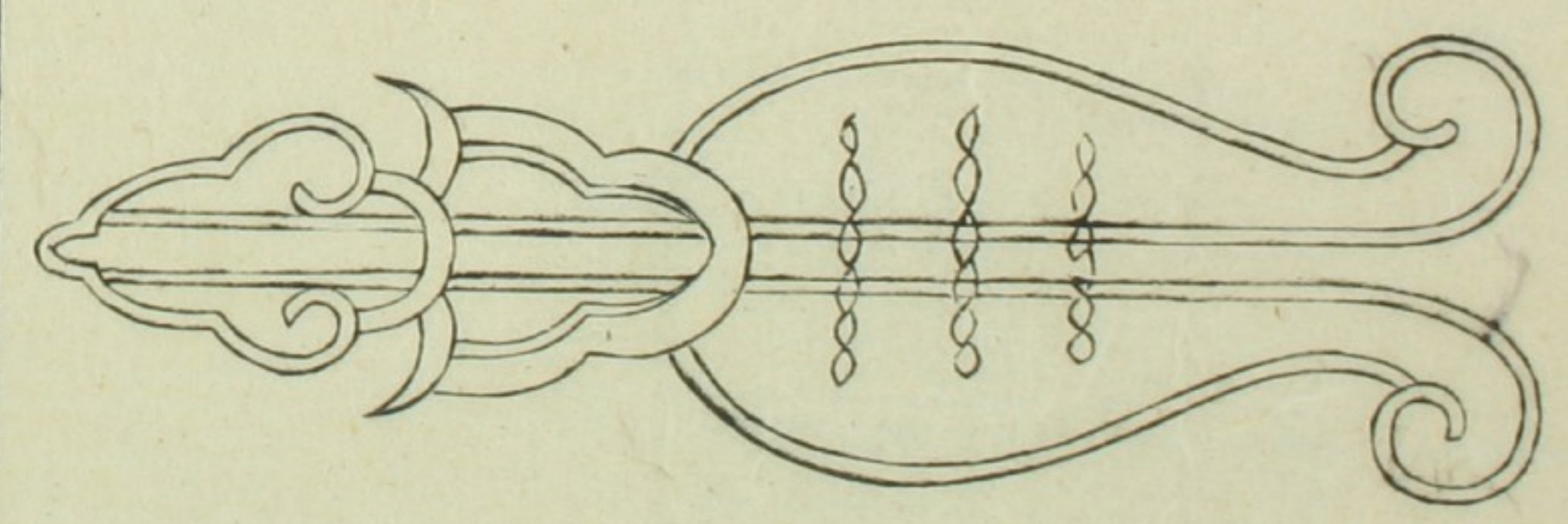


馬槽 ウマノヲ

字彙より名第まで馬の足洗アシアラシ器
又丸き鹽シホも用ゐる鹽シホと云ふ



風輪船 武備志



半截船 武備志

